令和５年９月２６日発行

立山町教育センターだより　号外　そふとめん12

立山町教育センター　〒930-0221　立山町前沢 3318　TEL: 463-4407　FAX: 463-6622　URL: http://www.tateyama-c.tym.ed.jp/

立山区域教務主任研修会　　**R5. 9. 19 立山中央小学校**

立山区域の学力向上をめざして
～全国学力・学習状況調査の分析に基づく授業改善～

９月１９日（火）立山中央小学校において、学力向上推進チーム主任研究主事高浦智美先生を講師に、県総合教育センター「アラカルト研修」を立山区域教務主任研修会において開催しました。「今、付けたい力」「分析に基づく授業改善」「PDCA サイクルによる学力向上の取組」について、お話を伺いながら研修しました。

- 全国学力・学習状況調査の問題で設定されている授業場面は、新学習指導要領が求める資質・能力の育成を目指す学習活動の例示となっており、今求められている「教育の方向性」が示されている。
- とやま型学力向上プログラム（Ⅲ期）に向けて、子供たちが思考を活性化し、真剣に課題に立ち向かうために、導入での事象の提示や学習環境の工夫、既習事項との違いを確認する場の工夫を行うとよい。また、子供自身が主体的に学習の進め方や自分に合った学び方について考えながら学んでいくように場の設定を考えるようにする。
- 児童生徒質問紙調査において、肯定的な回答をした子供の方が、正答率が高い。しかし、学校質問紙とのずれもあり、例えば「教師は考えを発表する場をつくったと思っているが、同じ質問での子供の数値は教師のものより低い」等のように、子供たちがどう感じているかということを考える必要がある。話合いを通して子供が自分なりの学びができるように、他の子供に広げる、共感的に受け止めるなど、教師の指導の在り方を見直すことが大切である。
- 書くことで、頭の中に入ってきた知識が整理される。「音で広げて、文字で刻む」ことを大切にする。

途中で「小中連携作戦会議」として、「我が校の授業の様子を振り返り、続けたらよいこと・改善したらよいこと」や、「授業のアイディア例から参考になること」等をグループで話し合いました。「課題の提示」「子供たち同士の関わり」「振り返りの充実」等、日頃の取組について見直すよい機会となりました。全国学力・学習状況調査の自校の結果を基に、「今の学年でどんな力を付けたらよいか」「そのためにどんな授業をしたらよいか」等について、全員で話し合う場をもちました。区域小中学校の教務主任が一堂に会して、結果と実際の子供の様子を結び付けて考え、授業改善につなげていかねばならないという思いを大きくする貴重な時間となりました。

利田小学校　教務主任　深 山 圭 子